

第2章 本市の状況

1 人口構造

- (1) 人口・世帯の状況
- (2) 子どもの状況
- (3) 高齢者の状況
- (4) 障がい者の状況

2 地域福祉をめぐる状況

- (1) 地域での支え合いの展開
- (2) 地域での支え合い活動
- (3) 地域の支え合い機能の向上
- (4) 地域の人とつながりを持てる場や交流をする機会
- (5) 地域での活動



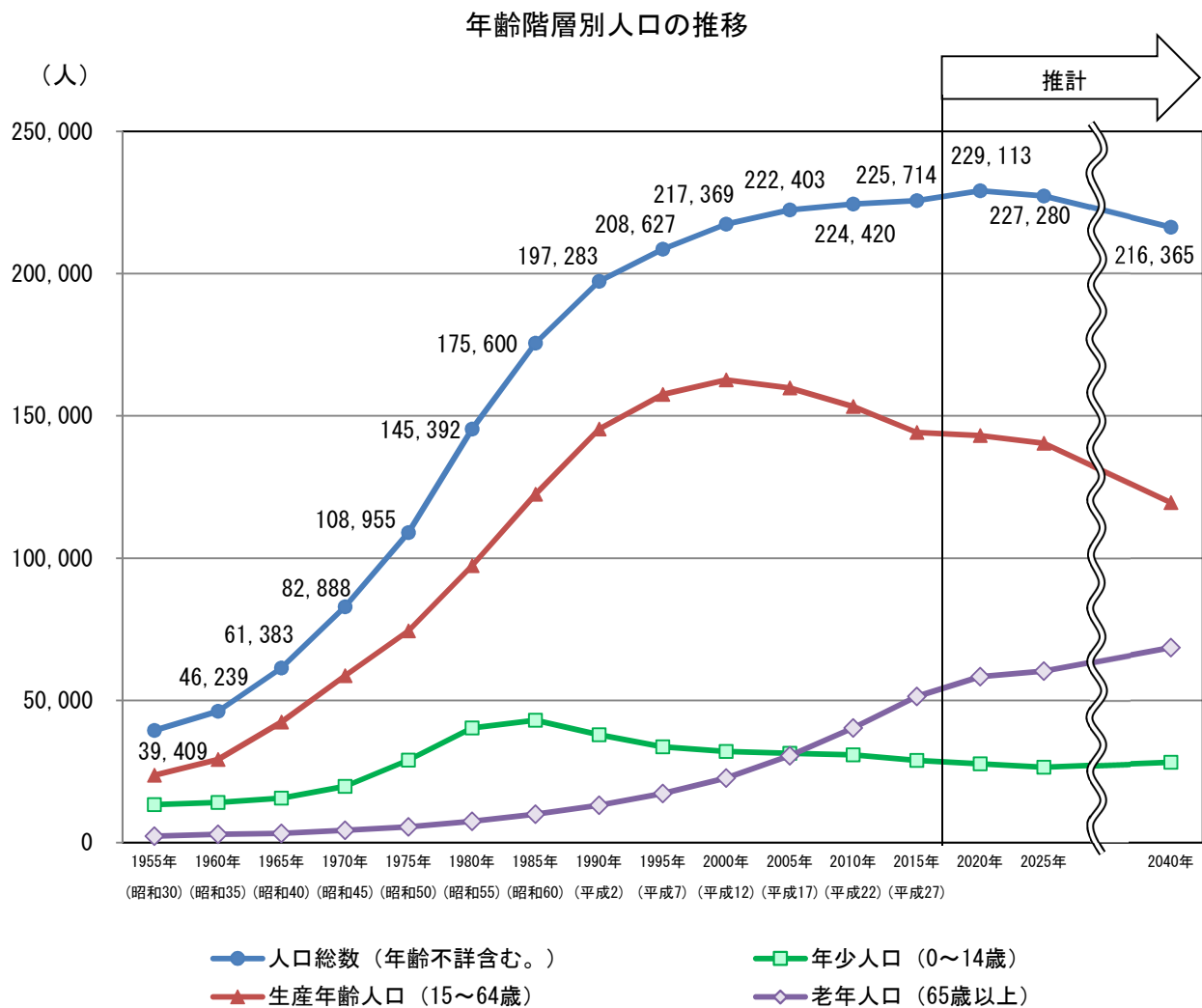
1 人口構造

(1) 人口・世帯の状況

ア 人口・年齢階層別人口

人口総数は一貫して増加を続けていますが、増加率は縮小傾向にあり、近年は横ばい又は微増傾向となっています。年少人口（0～14歳）は昭和60年以降緩やかに減少し、平成17年に老年人口（65歳以上）とほぼ同数となりました。生産年齢人口（15～64歳）は平成12年以降減少に転じていますが、老年人口（65歳以上）は一貫して増加を続けています。

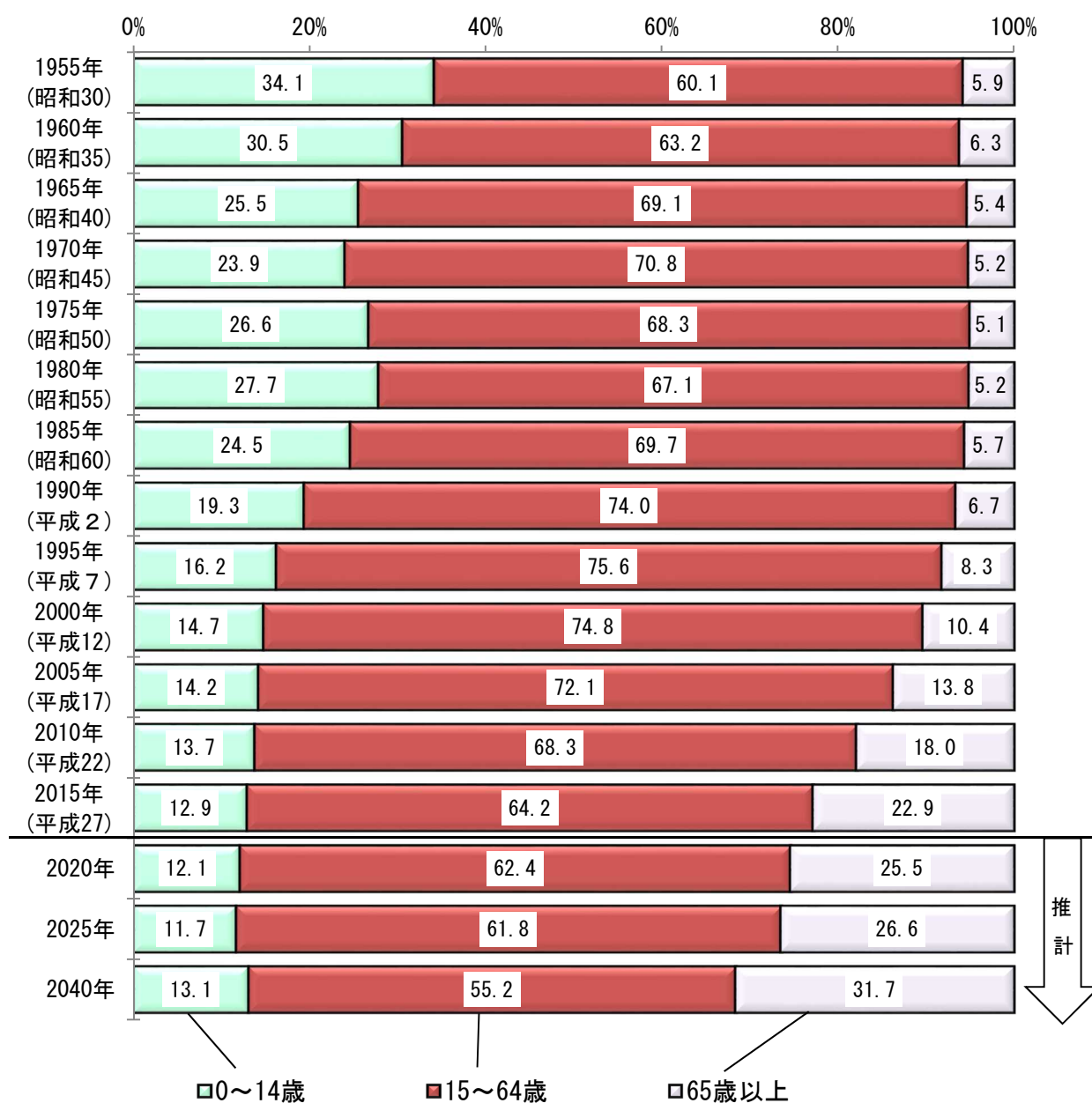
今後については、合計特殊出生率の上昇と20歳代の定住促進・転出抑制に取り組むことにより実現できるとした推計値を本市の人口の将来展望とし、目標人口を定めています。



資料 国勢調査、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望

※ 各年10月1日現在

年齢構成比率の推移



資料 国勢調査、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望

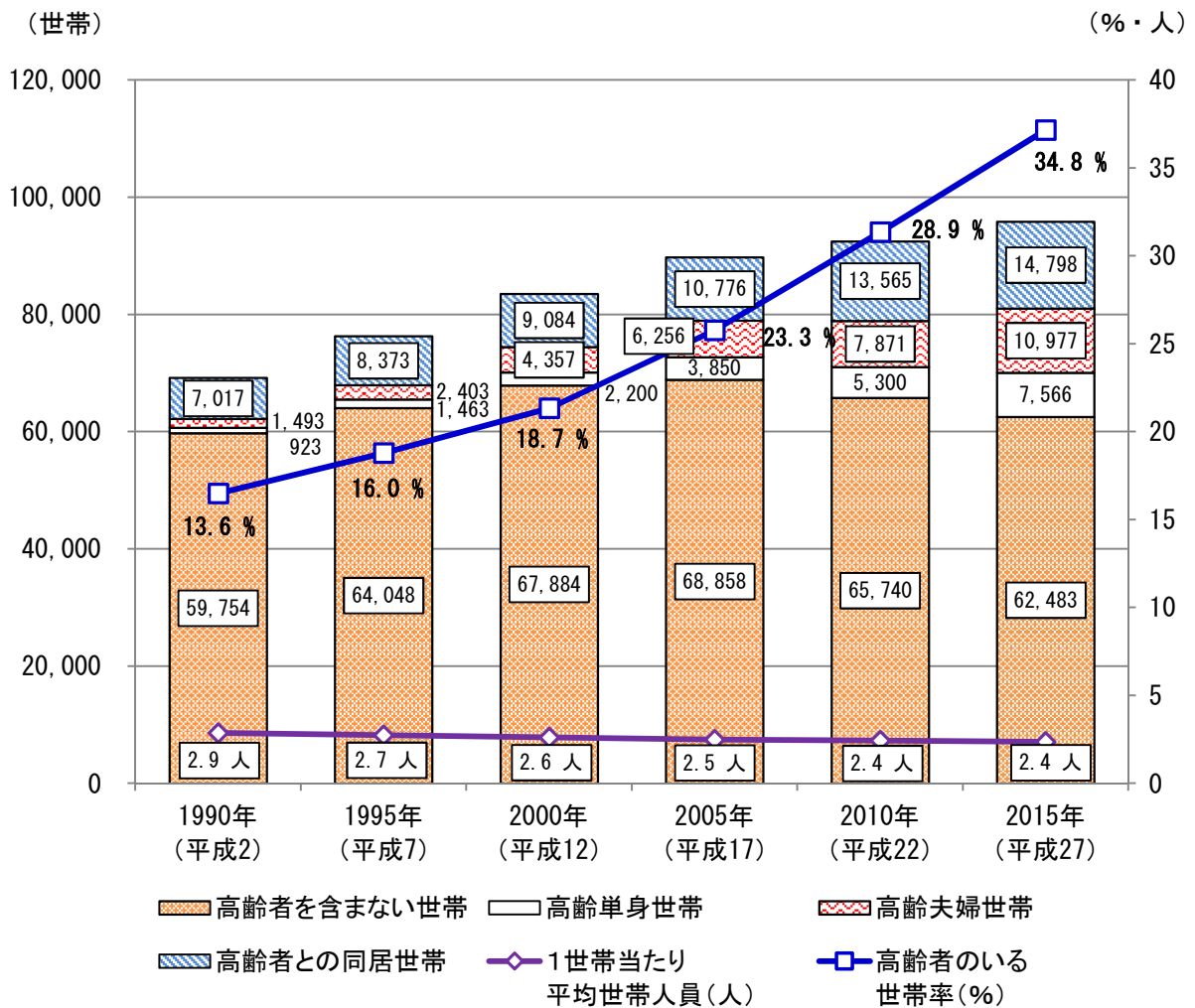
※ 各年10月1日現在

イ 高齢者を含む世帯の状況

人口の伸びに伴い、世帯数は増加していますが、高齢者のいる世帯（高齢単身世帯、高齢夫婦世帯及び高齢者との同居世帯）は、平成17年から平成27年の10年で約1.6倍増加し、高齢者を含まない世帯は減少傾向にあります。

また、人口を世帯数で除した一世帯当たりの平均世帯人員は減少傾向にあり、世帯の小規模化が進んでいます。

高齢者を含む世帯数の推移



資料 国勢調査

※ 各年10月1日現在

※ 国勢調査による数値であるため、住民基本台帳による数値とは一致しない。

※ 高齢者夫婦世帯とは、夫又は妻のいずれかが65歳以上の夫婦1組のみの一般世帯

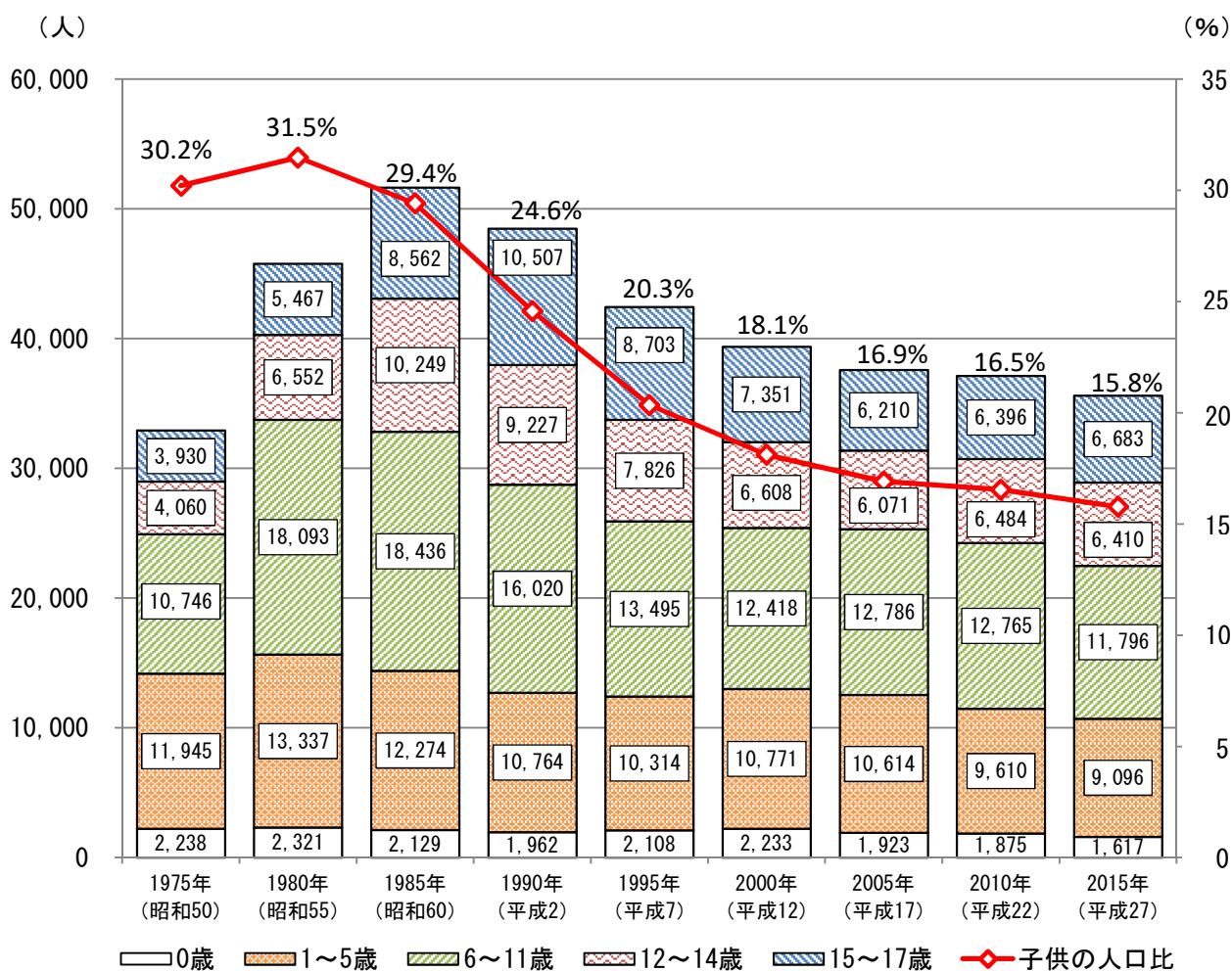
(2) 子どもの状況

ア 子どもの人口（18歳未満）

18歳未満の子どもの人口は、第2次ベビーブームの昭和40年代後半から急速に増加しましたが、昭和60年からは徐々に減少しています。

総人口に対する子どもの人口の割合を昭和50年と平成27年とで比較すると、昭和50年が30.2%で約3人に1人、平成27年には15.9%で約6人に1人という状況になっています。

子どもの人口の推移



資料 国勢調査

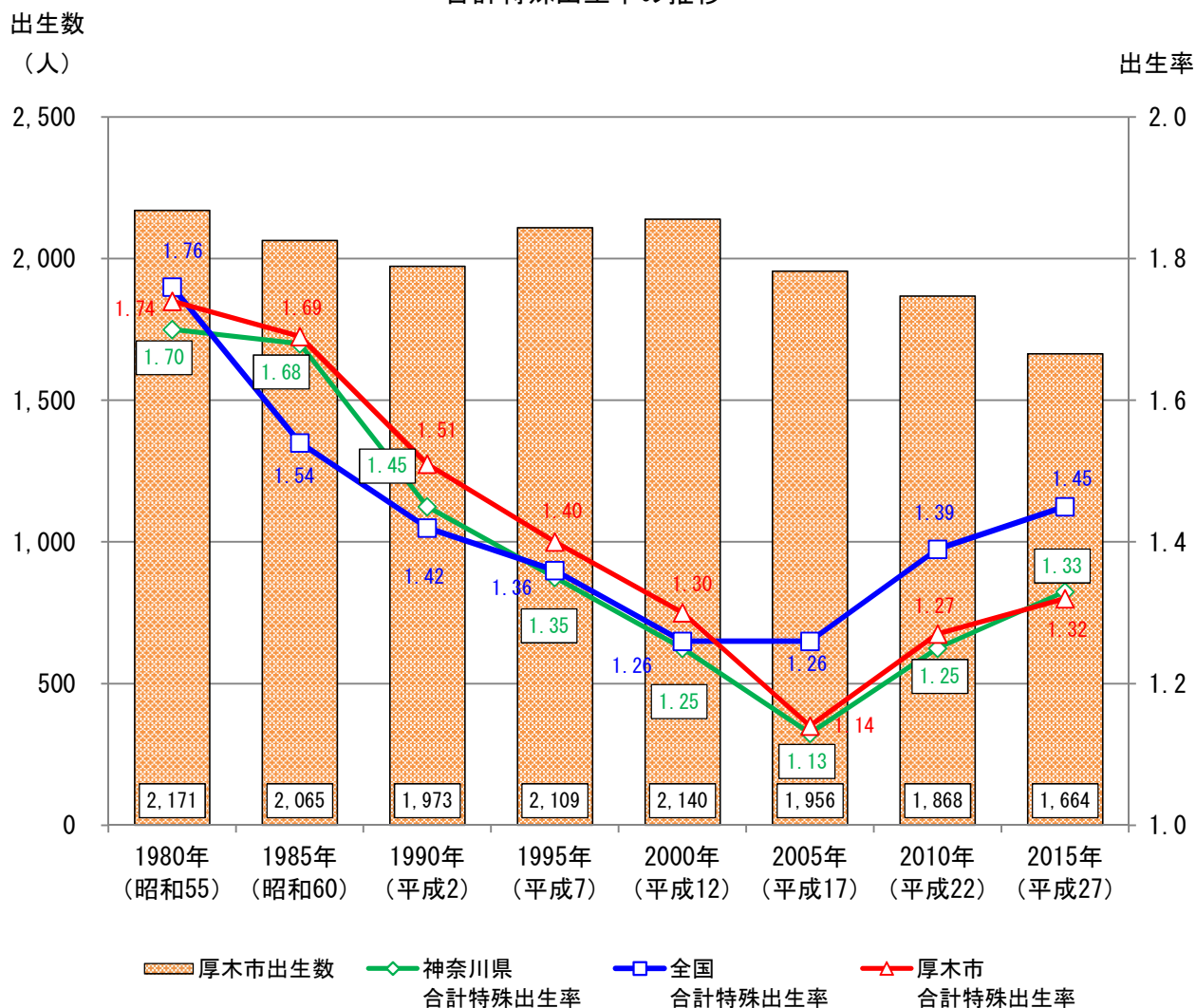
※ 各年10月1日現在

イ 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率は、近年、増加傾向となっていますが、出生数は減少しています。
平成12年と平成27年を比較すると、本市の出生率が1.30から1.32に増加しているにもかかわらず、出生数は約500人減少しています。

また、本市の出生率は、平成12年には国・県の出生率を上回っていましたが、平成27年では、国・県より低くなっています。

合計特殊出生率の推移



資料 厚生労働省「人口動態統計」、神奈川県「神奈川県衛生統計年報」

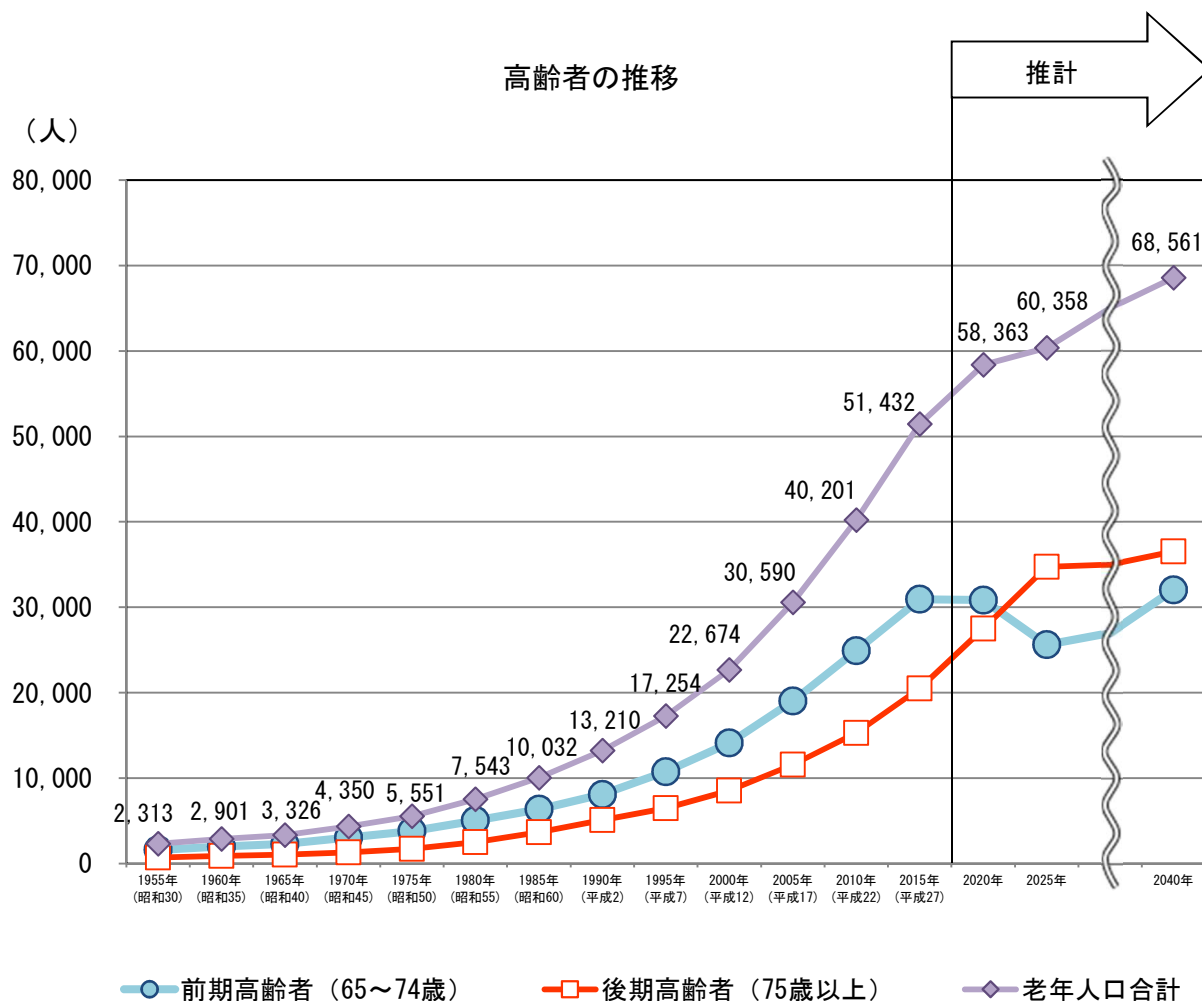
※ 合計特殊出生率は、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当する。

(3) 高齢者の状況

ア 高齢者数

65歳以上の高齢者数は、一貫して増加を続け、昭和30年に17人に1人だった高齢者が平成27年には4人に1人になり、2040年には市民の3人に1人が高齢者になる見込みです。

また、団塊の世代が75歳以上になる2025年には、後期高齢者（75歳以上）数が、前期高齢者（65歳～74歳）数を上回る見込みとなっています。



資料 国勢調査、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望

※ 各年10月1日現在

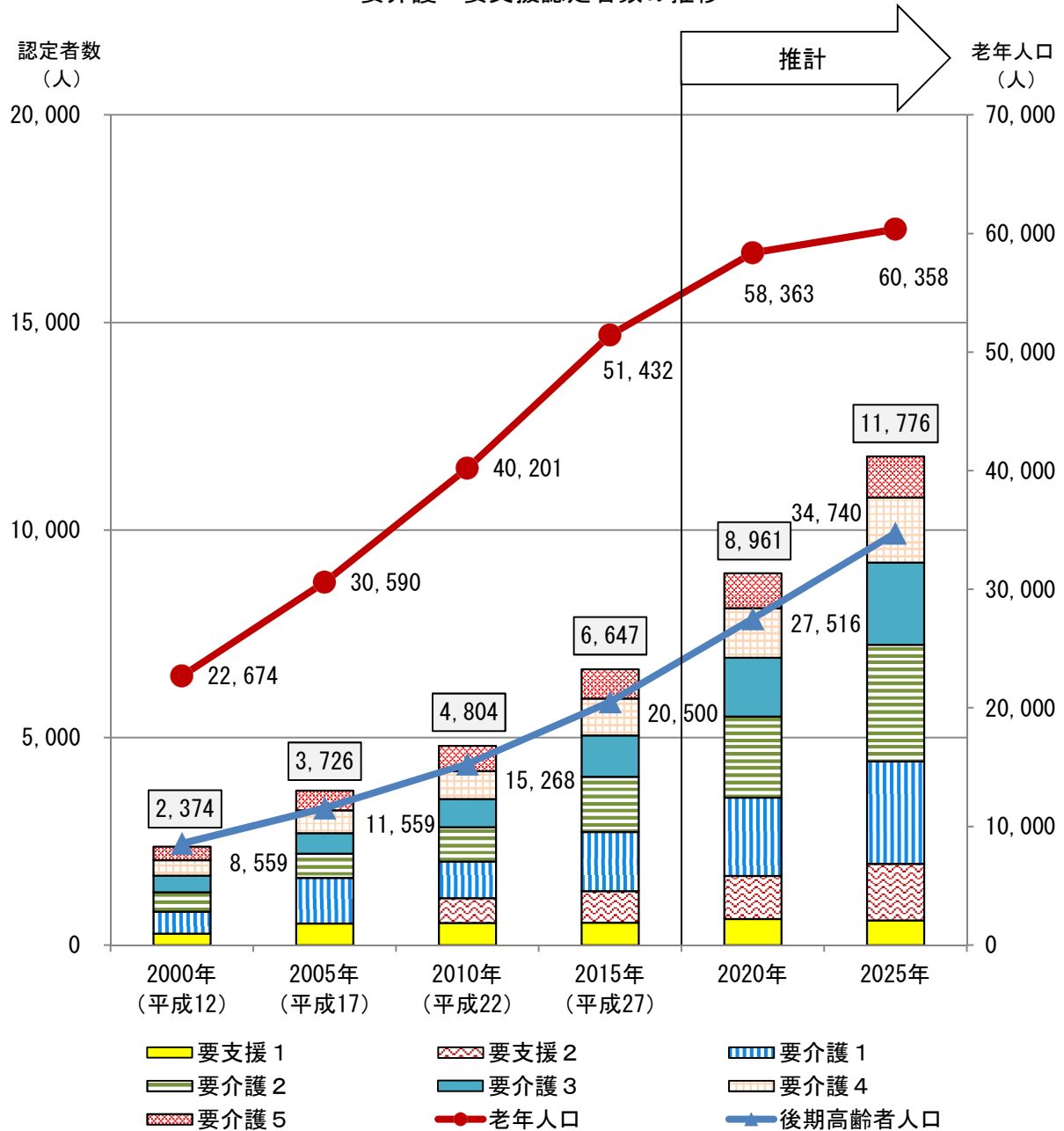
イ 要介護・要支援認定者数

要支援・要介護認定者数は、平成 27 年 10 月 1 日現在 6,647 人を数え、介護保険制度が始まった平成 12 年の 2,374 人と比べ 15 年間で 4,273 人増え、約 2.8 倍の認定者数となっています。これは、高齢者人口の増加を上回る状況にあります。

要介護度別認定者数をみると、合計に占める割合が最も高いのは、全ての年度で要介護 1、次いで要介護 2 となっています。

要支援と要介護の認定者の割合を年度別に見ると、要支援の認定者及び重度の認定者の割合が減少傾向にあります。

要介護・要支援認定者数の推移



資料 厚木市介護福祉課

※ 各年 10 月 1 日現在

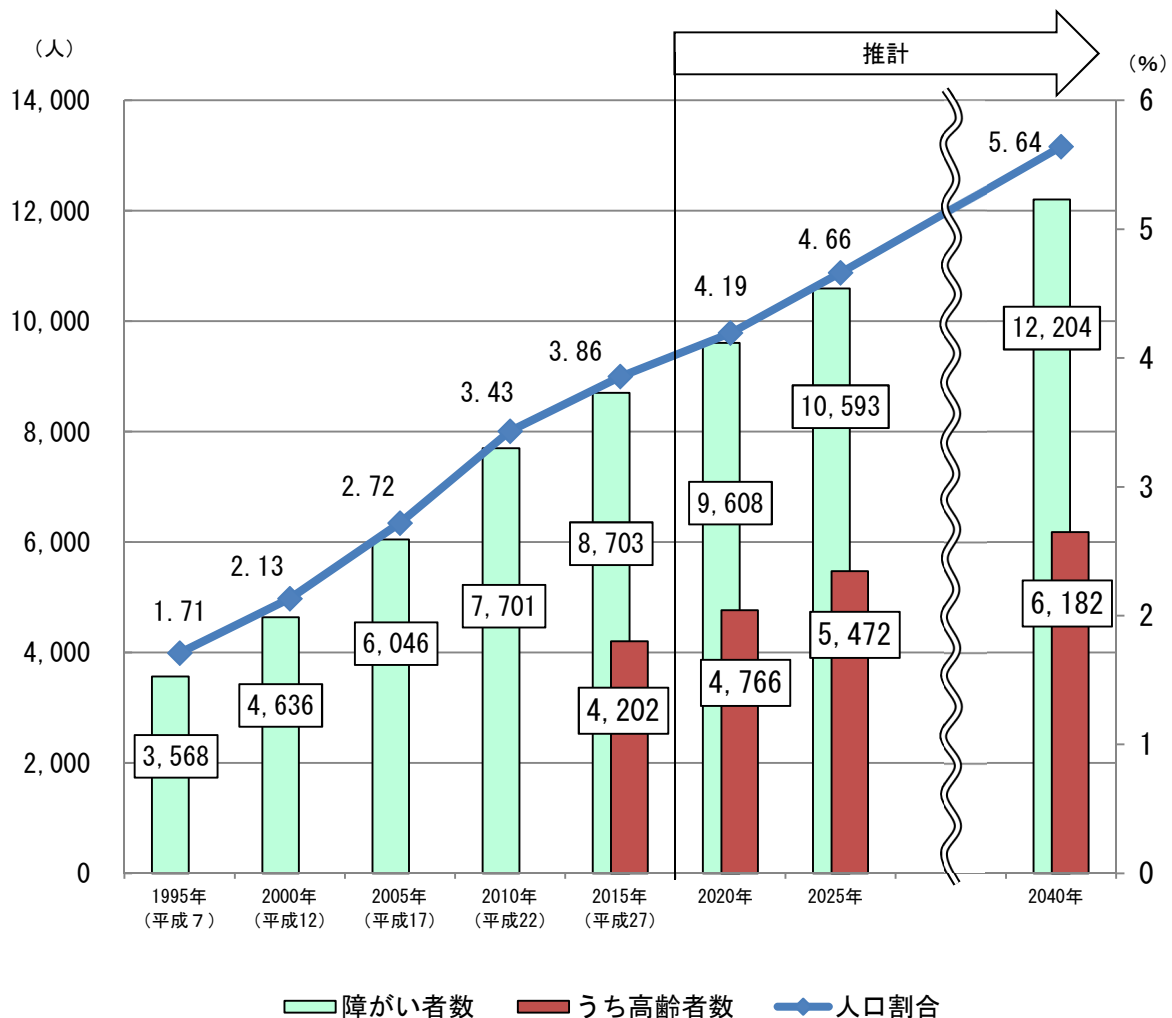
(4) 障がい者の状況

ア 障がい者人口（障害者手帳所持者）

障がい者は年々増加しており、2025年では、平成7年からの30年間で約3倍になると推計しています。また、障がい者人口における65歳以上の高齢者の割合は約半数を占め、今後も増加することが見込まれます。

厚木市人口ビジョンにおける将来展望によると、人口は2020年をピークに減少すると推計していますが、障がい者人口割合は大幅に増加すると見込んでいます。

障がい者（障害者手帳所持者）の状況と人口割合の推移



資料 厚木市障がい者数統計、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望

※ 各年10月1日現在（平成7年、平成12年は4月1日現在）

※ 障がい者人口は、障がいのある人が取得できる手帳で、一般に身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の総称

※ 障がい者数は、正確な数値を捉えることが不可能なため、それぞれの障害者手帳所持者の合計から重複の人数を除いた数とします。

※ 高齢者数は平成25年度からの統計値

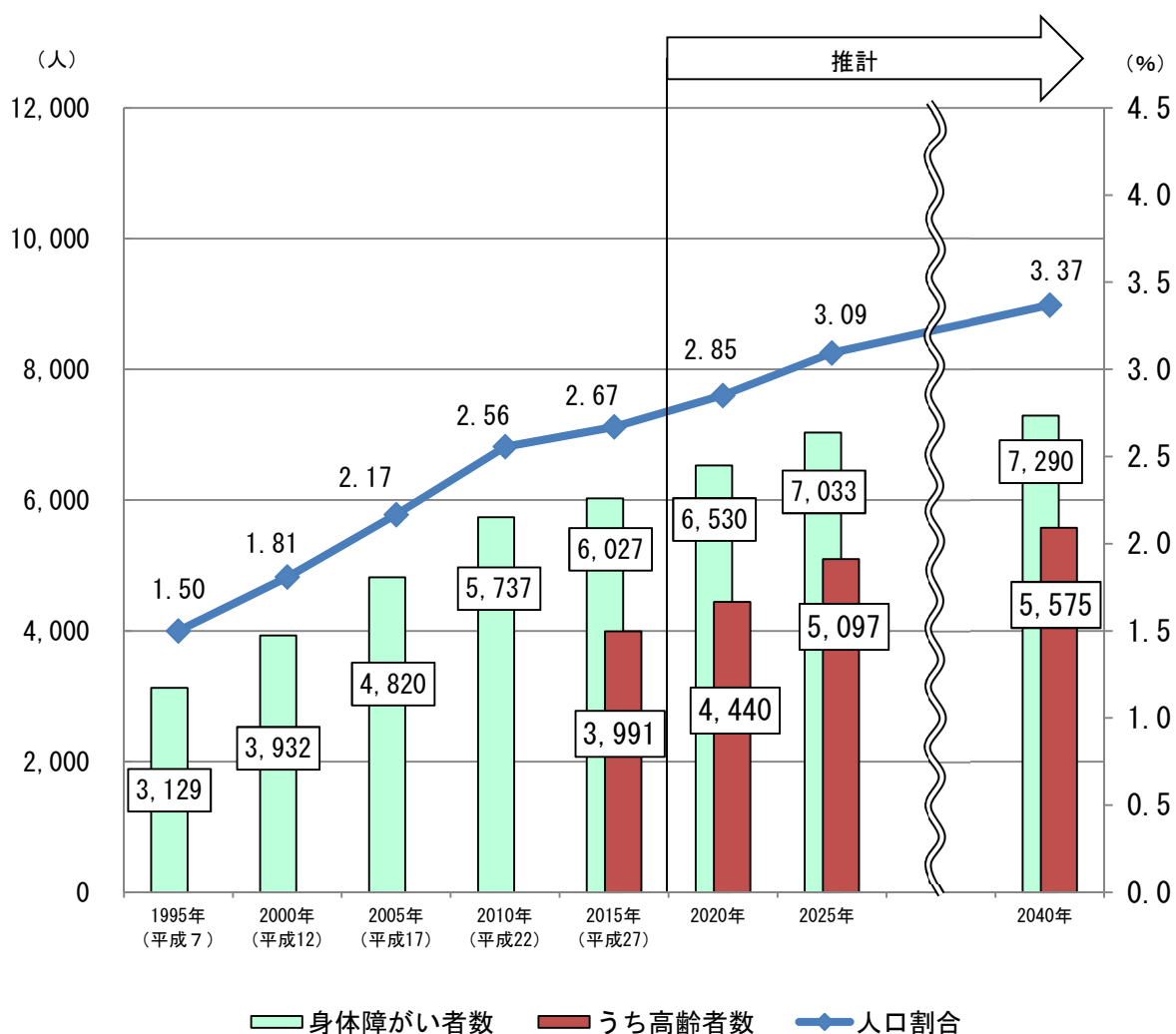
イ 身体障がい者人口（身体障害者手帳所持者）

身体障がい者及び人口割合は、一貫して増加を続けています。

今後については、身体障がい者が高齢になることに加えて、高齢化に伴う身体機能の低下による身体障がい者が新たに増加すると見込んでいます。

こうした状況から、身体障がい者の人口割合は、大幅に増加すると見込んでいます。

身体障がい者人口（身体障害者手帳所持者）の状況と人口割合の推移



資料 厚木市障がい者数統計、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望

※ 各年10月1日現在（平成7年、平成12年は4月1日現在）

※ 身体障がい者数は身体障害者手帳の所持者数（他の障がいとの重複の人数を含む。）

※ 身体障害者手帳は、身体障害者福祉法が定める身体障がいの種類や程度に該当し、その障がいが一定以上持続する場合に所持する手帳

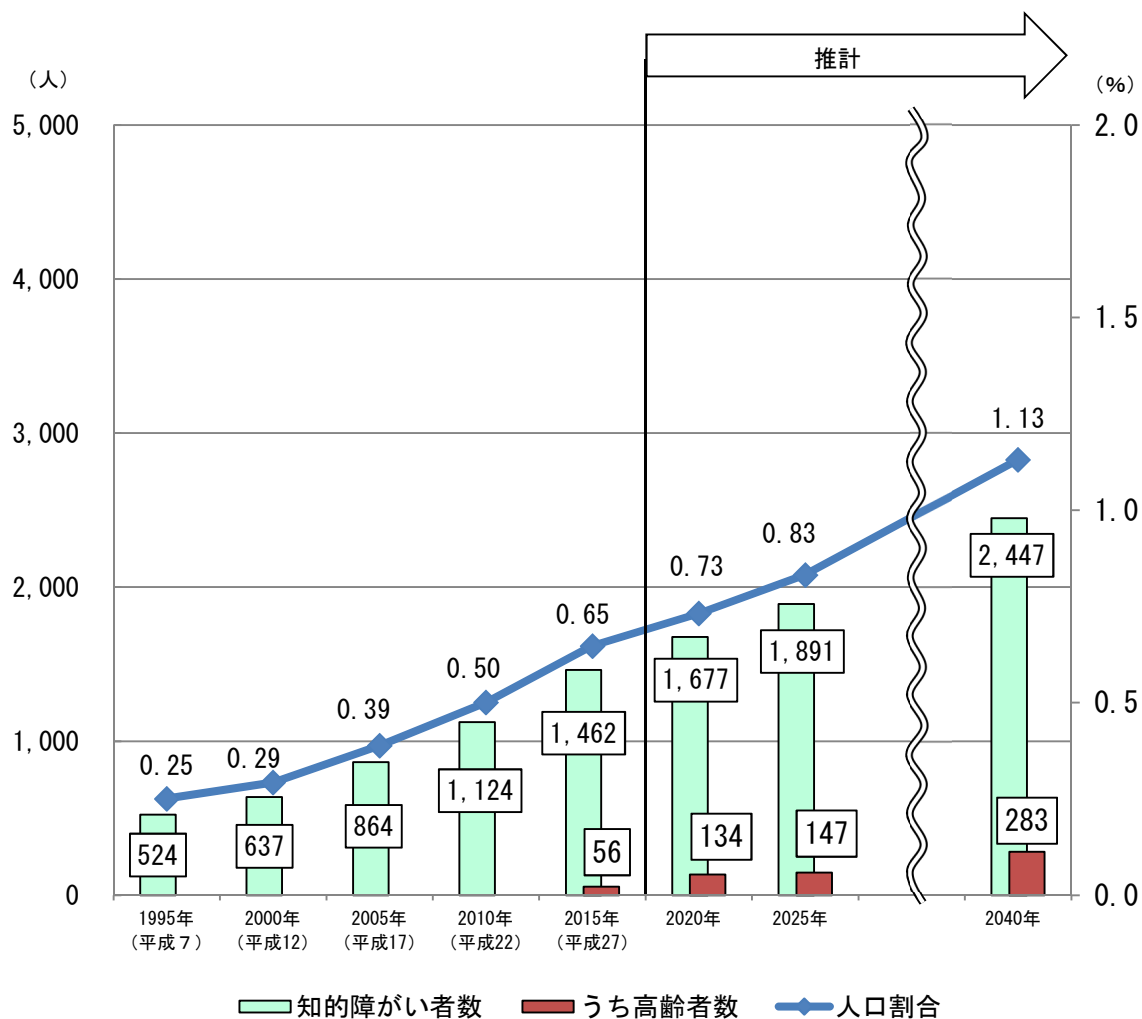
※ 高齢者数は平成25年度からの統計値

ウ 知的障がい者（療育手帳所持者）

知的障がい者及び人口割合は、一貫して増加を続けています。

療育手帳は20歳頃までに取得するものですが、中高年世代では取得しなかった人もいることから、現在は若年層を中心に手帳取得者が多くなっている状況です。そうした年齢層が加齢とともに増加しますので、知的障がい者及び人口割合は、増加が続くと見込んでいます。

知的障がい者（療育手帳所持者）の状況と人口割合の推移



資料 厚木市障がい者数統計、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望

※ 各年10月1日現在（平成7年、平成12年は4月1日現在）

※ 知的障がい者数は療育障害者手帳の所持者数（他の障がいとの重複の人数を含む。）

※ 療育手帳は、神奈川県が知的障がいと判定した場合に所持する手帳ですが、知的障がいと判定を受けた方が必ずしも手帳を取得するとは限りません。

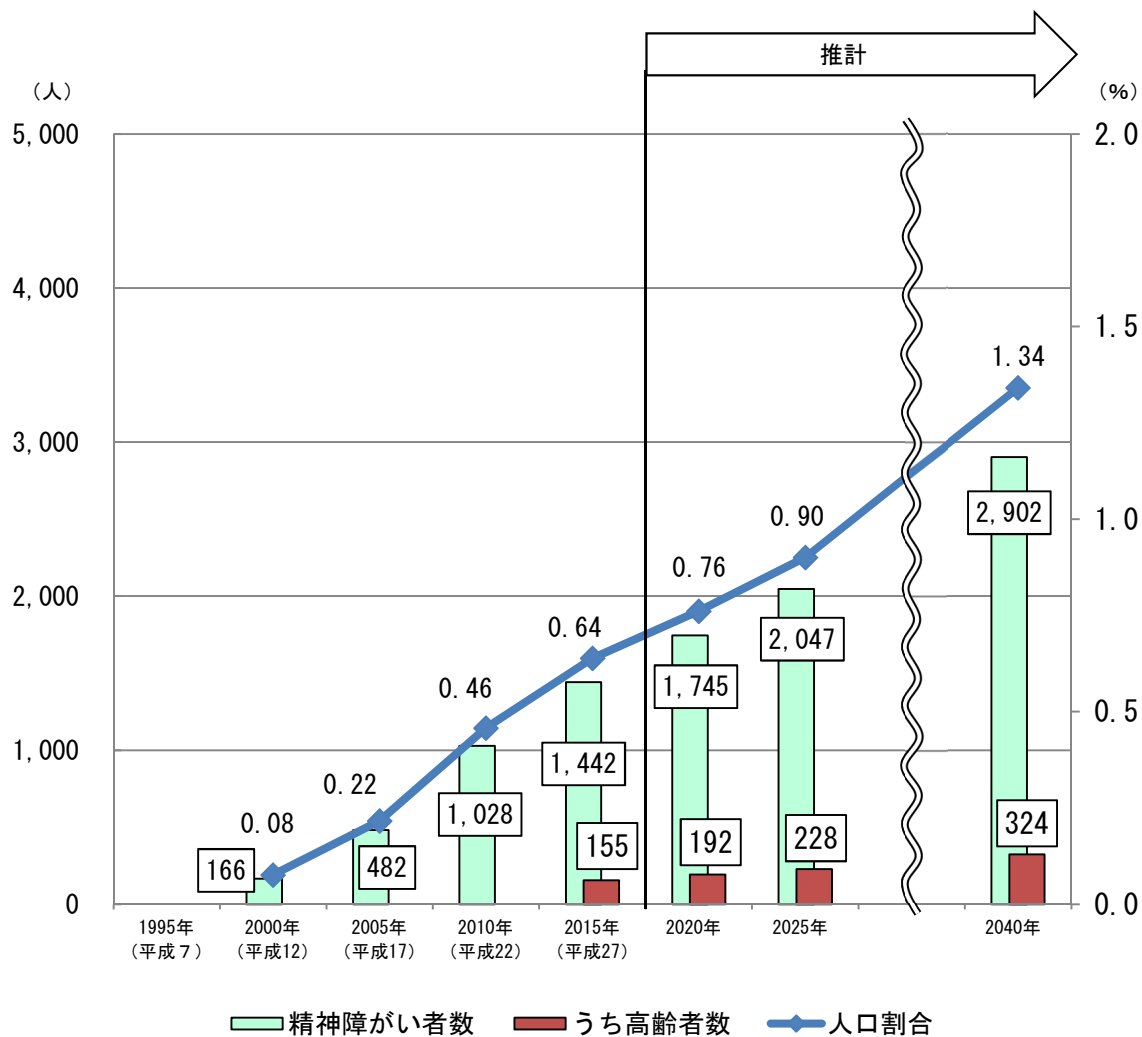
※ 高齢者数は平成25年度からの統計値

エ 精神障がい者（精神障害者保健福祉手帳所持者）

精神障がい者及び人口割合は、一貫して増加を続けています。

精神障害者保健福祉手帳は、精神疾患のため生活に支障がある場合に所持するものなので、精神疾患に罹患している人は手帳の所持者以上に存在していると思われます。今後は、地域包括ケア社会の実現に向けた取組により、これまで支援につながらなかった人が障害福祉サービスを利用することが想定されるため、精神障がい者及び人口割合は増加が続くと見込んでいます。

精神障がい者（精神障害者保健福祉手帳所持者）の状況と人口割合の推移



資料 厚木市障がい者数統計、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望

※ 各年 10 月 1 日現在（平成 7 年、平成 12 年は 4 月 1 日現在）

※ 精神障がい者数は精神障害者保健福祉手帳の所持者数（他の障がいとの重複の人数を含む。）

※ 精神障害者保健福祉手帳は、精神保健福祉法に基づき、精神疾患のため生活に支障がある場合に所持する手帳ですが、精神疾患に罹患している方が必ずしも手帳を取得するとは限りません。

※ 高齢者数は平成 25 年度からの統計値

2 地域福祉をめぐる状況

平成28年度に実施した厚木市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）策定のための調査結果及び厚木市障害福祉サービス利用（提供）実態調査結果で浮かび上がった課題、地域福祉に求められている必要な取組等について検証しました。

【実施したアンケート調査】

調査の名称	対象
① 若年者一般調査	厚木市に住民登録のある40歳以上65歳未満で、要介護・要支援認定を受けていない市民700人を無作為に抽出
② 高齢者一般調査	厚木市に住民登録のある65歳以上で、要介護・要支援認定を受けていない市民700人を無作為に抽出
③ ひとり暮らし老人登録者調査	ひとり暮らし老人登録をしている市民（同一敷地内及び隣接地に配偶者又は一親等以内の方が居住していない65歳以上で登録を希望される方）300人を無作為に抽出
④ 日常生活圏域ニーズ調査	厚木市に住民登録のある65歳以上で、要介護の認定を受けていない市民（市内10地域包括圏域ごとに500人ずつを対象とする。）5,000人を無作為に抽出
⑤ 居宅介護サービス利用者実態調査	要介護・要支援認定者で、平成28年8・9月に居宅サービスを利用していた市民1,000人を無作為に抽出
⑥ 介護保険未利用者実態調査	要介護・要支援認定者で、平成28年8・9月に居宅サービスを利用していなかった市民500人を無作為に抽出
⑦ 介護保険指定事業者実態調査	市内の介護保険指定事業者に対し、各サービスの現状と今後の予定について75事業者を無作為に抽出
⑧ 障害福祉サービス利用実態調査（障がい者、障がい児）	厚木市に住民登録のある障害福祉サービス受給者600人を無作為に抽出
⑨ 障害福祉サービス提供実態調査（事業所）	市内の障害福祉サービス事業所に対し、各サービスの現状と今後の予定について104事業所全てを対象

(1) 地域での支え合いの展開

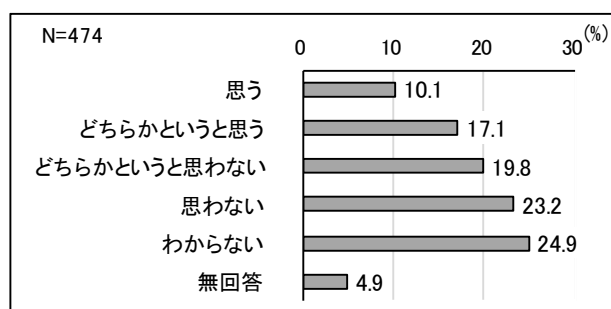
本市の地域福祉計画は、これまでも、施策の一つとして「見守り・支え合いの地域づくり」に取り組んできましたが、高齢者、障がい者などを対象に行ったアンケート調査の結果では、「あなたのお住いの地域では支え合いが展開されていると思いますか。」という設問に対して、居宅介護サービス利用者調査の結果では、「思わない」が「思う」を上回り、障害福祉サービス利用実態調査でも同様の結果となっています。

一方、若年者一般調査、高齢者一般調査、ひとり暮らし老人登録者調査及び日常生活圏域ニーズ調査の結果では、「どちらかという思う」が最も高くなっています（「わからない」という回答を除く。）。

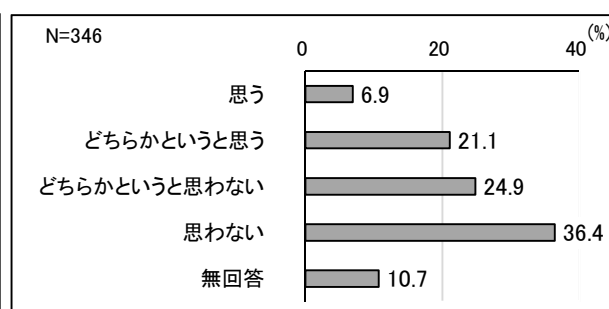
このように、福祉サービスを必要とする方と、必要としない方とでは、地域での支え合いの展開について、意識の差が生じています。

問 あなたのお住いの地域では支え合いが展開されていると思いますか。（回答は1つ）

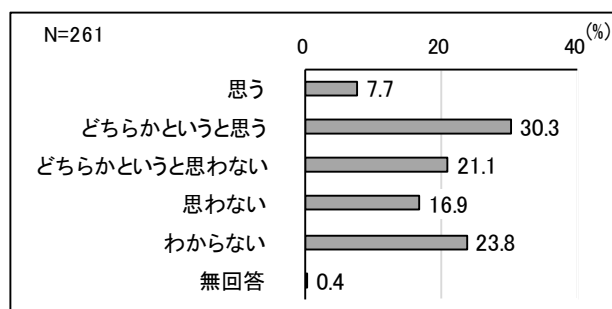
【居宅介護サービス利用者調査】



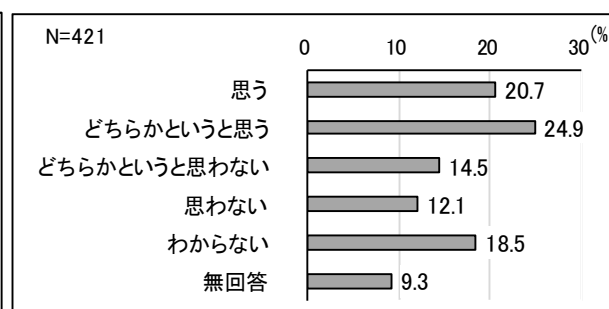
【障害福祉サービス利用実態調査】



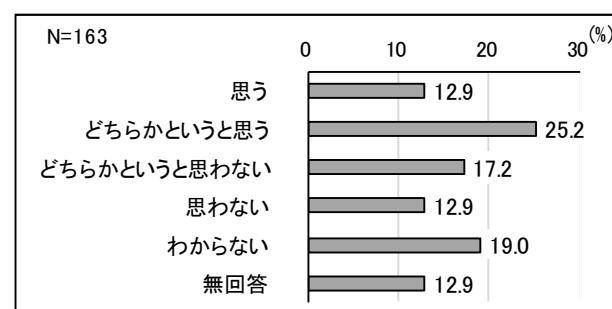
【若年者一般調査】



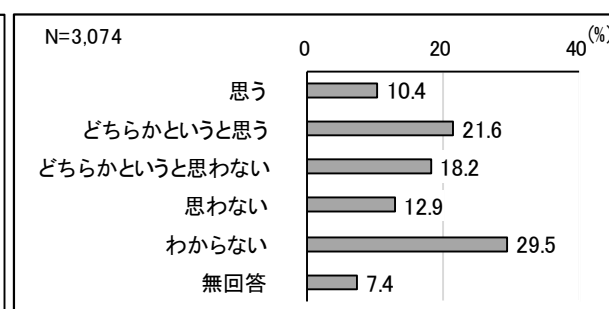
【高齢者一般調査】



【ひとり暮らし老人登録者調査】



【日常生活圏域ニーズ調査】



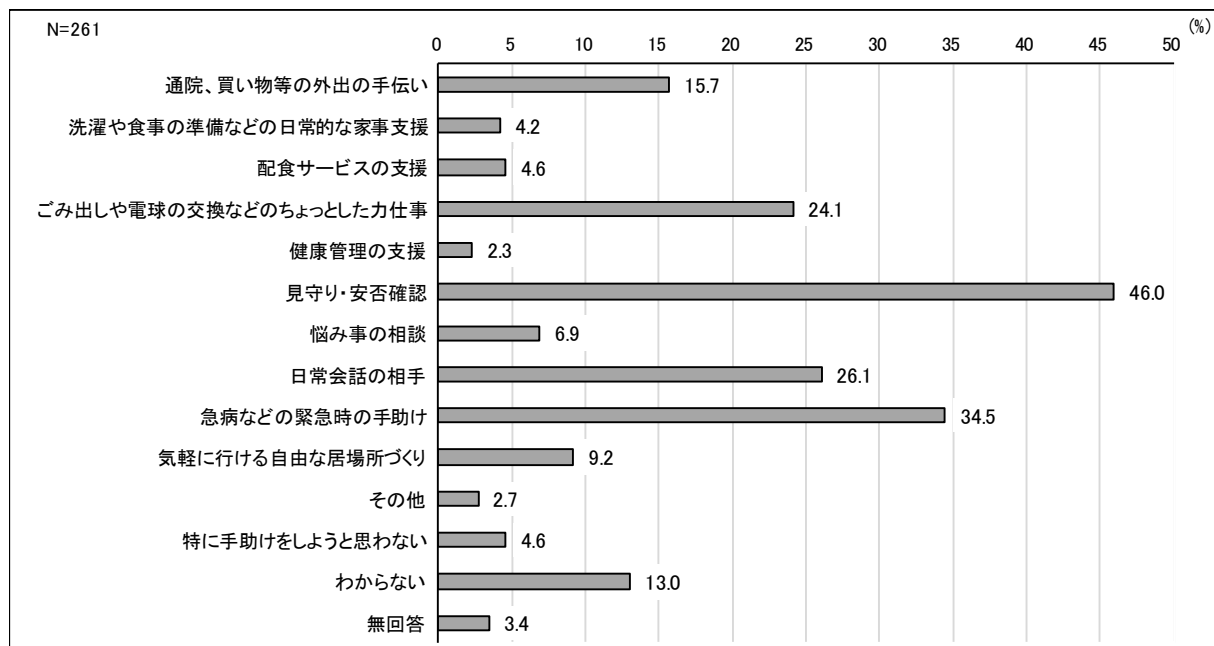
(2) 地域での支え合い活動

地域での支え合い活動について、若年者一般調査、高齢者一般調査、ひとり暮らし老人登録者調査及び日常生活圏ニーズ調査の結果では、「あなたが実施したい地域での支え合い活動は何ですか。」という設問に対しては、「見守り・安否確認」が最も多くなっています。

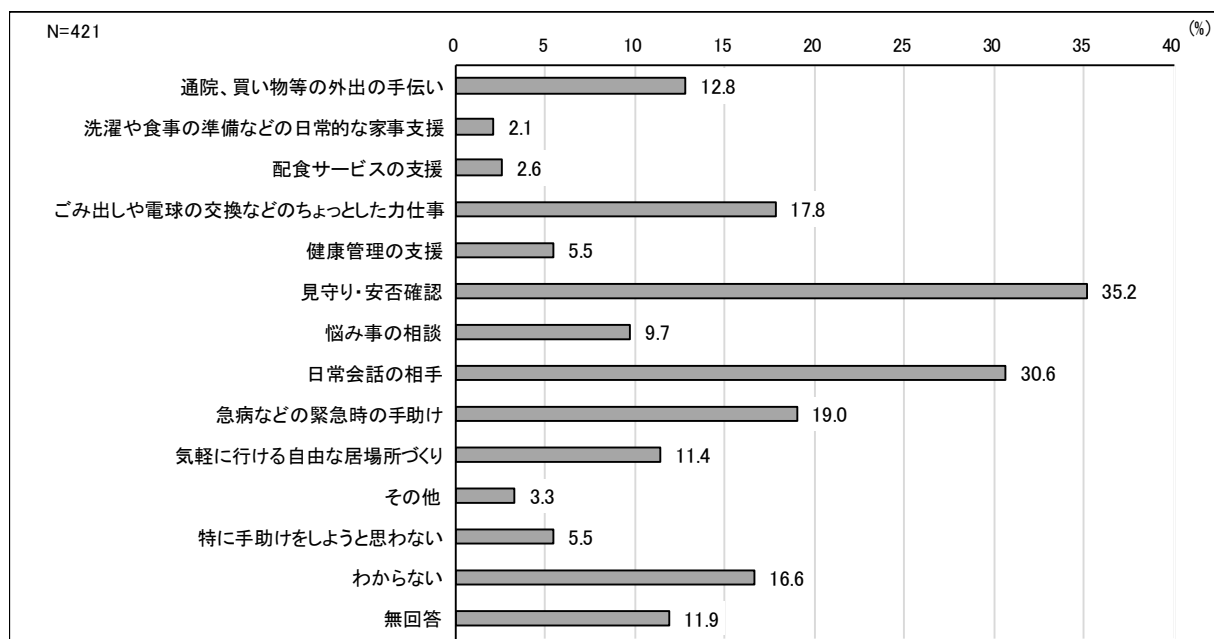
また、いずれの調査でも「急病などの緊急時の手助け」、「気軽に行ける自由な居場所づくり」、「通院、買い物等の外出の手伝い」などが高くなっています。

問 あなたが実施したい地域での支え合い活動は何ですか。(回答は3つまで)

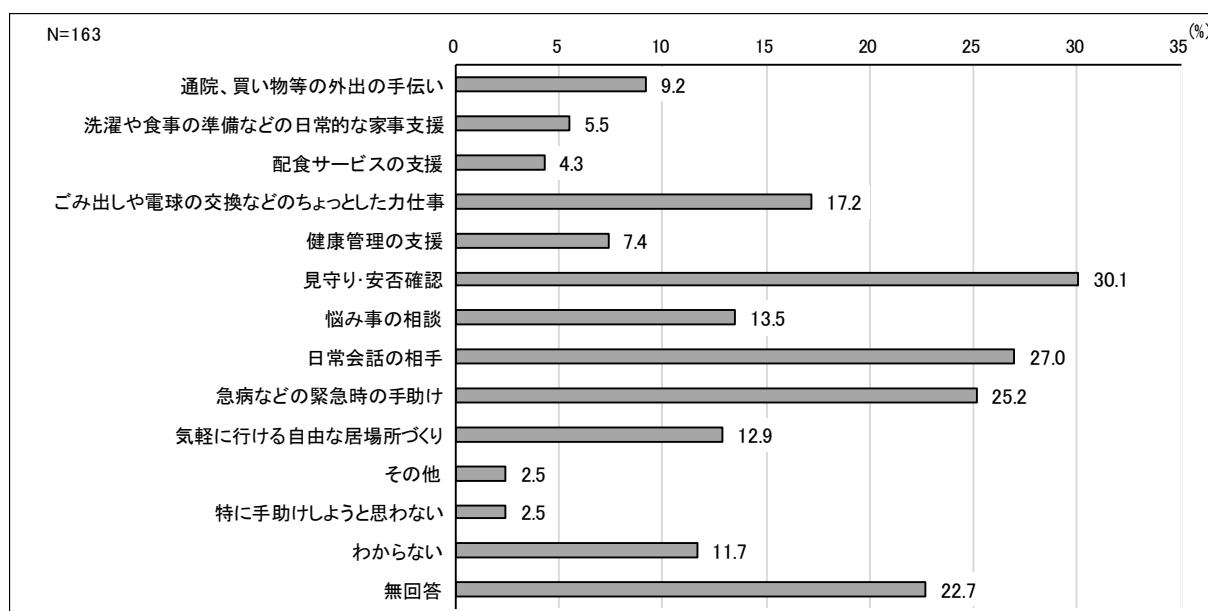
【若年者一般調査】



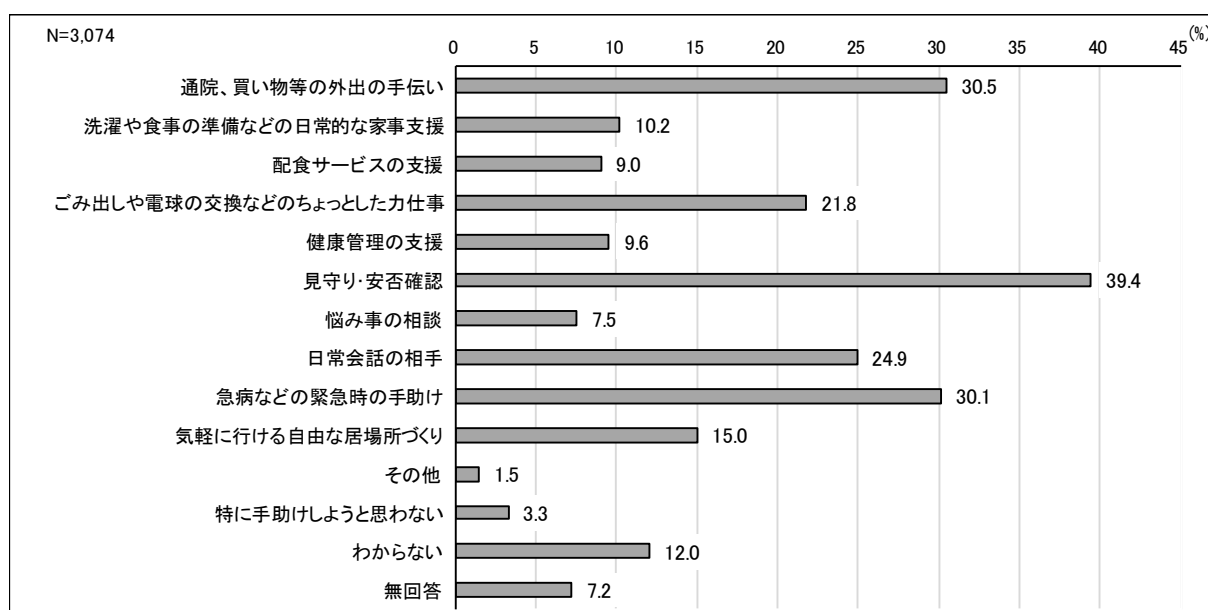
【高齢者一般調査】



【ひとり暮らし老人登録者調査】



【日常生活圏域ニーズ調査】

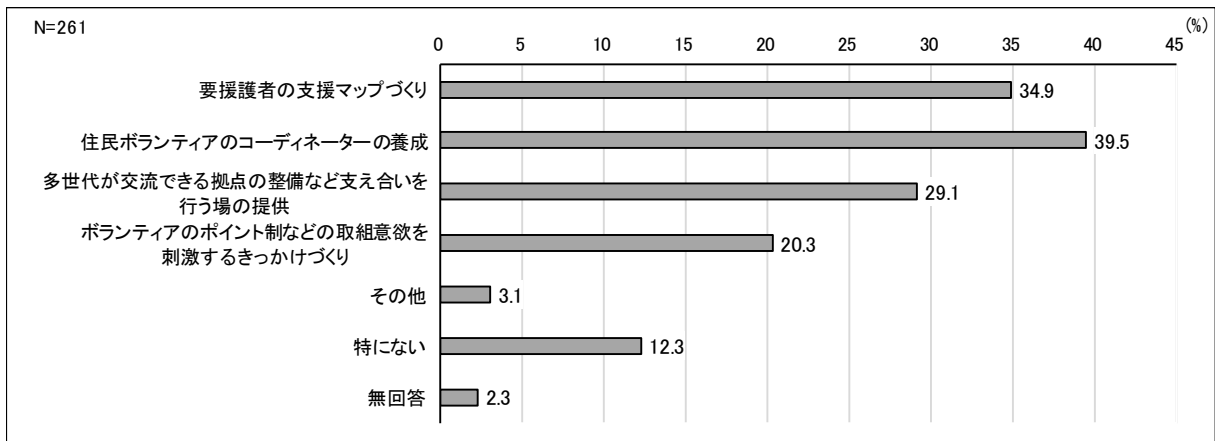


(3) 地域の支え合い機能の向上

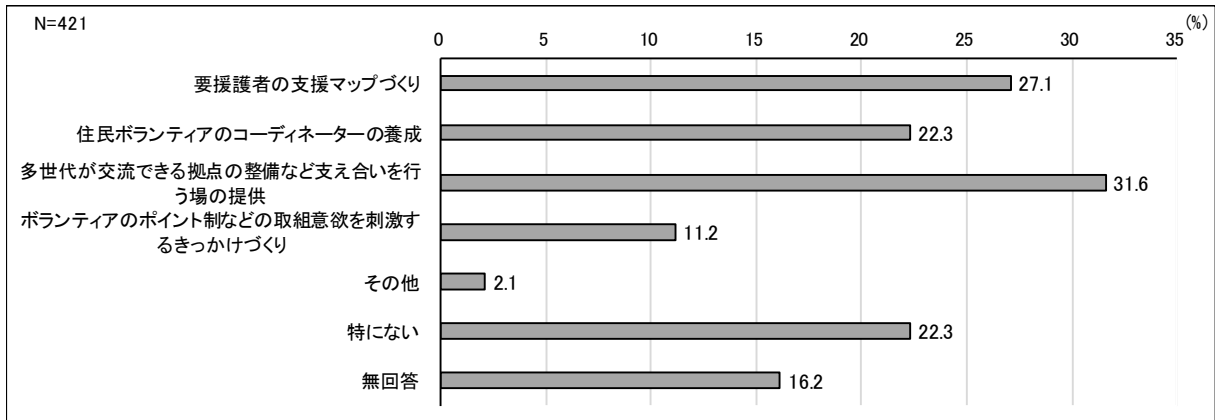
地域の支え合い機能の向上について、若年者一般調査、高齢者一般調査、ひとり暮らし老人登録者調査、日常生活圏域ニーズ調査、居宅介護サービス利用者実態調査及び介護保険未利用者実態調査の結果では、「地域の支え合い機能を向上させるためにどのような施策が有効だと思いますか。」という設問に対して、「要援護者の支援マップづくり」、「住民ボランティアのコーディネーターの養成」などが高くなっています。

問 地域での支え合い機能を向上させるためにはどのような施策が有効だと思いますか。(回答は2つまで)

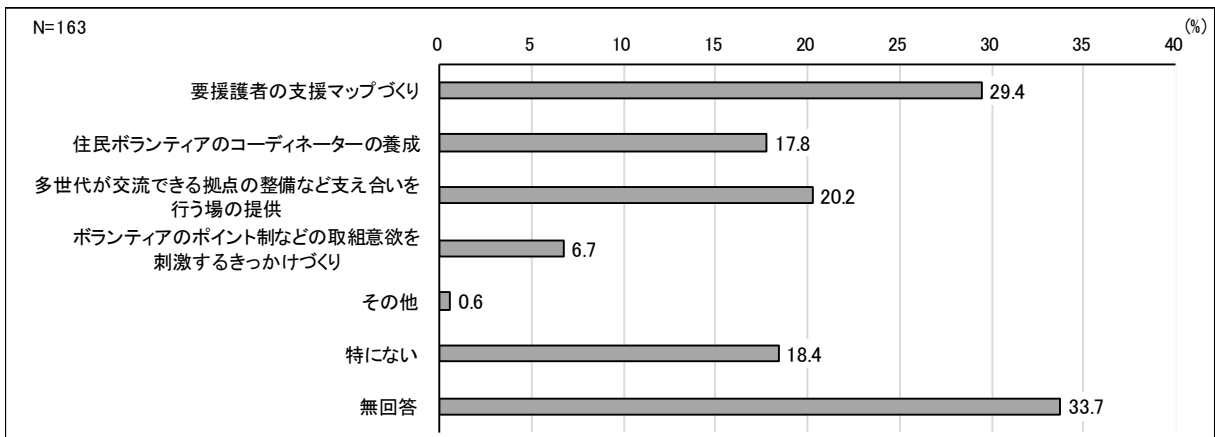
【若年者一般調査】



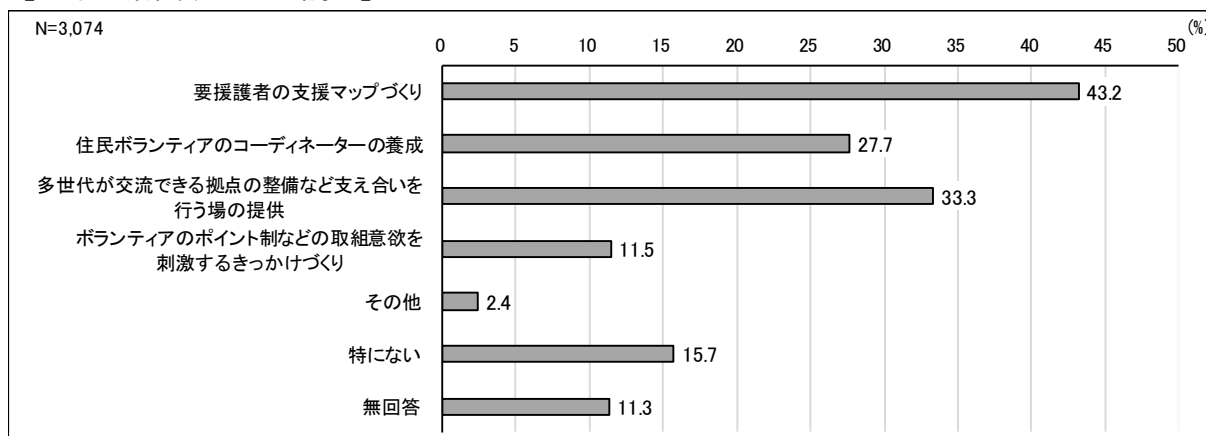
【高齢者一般調査】



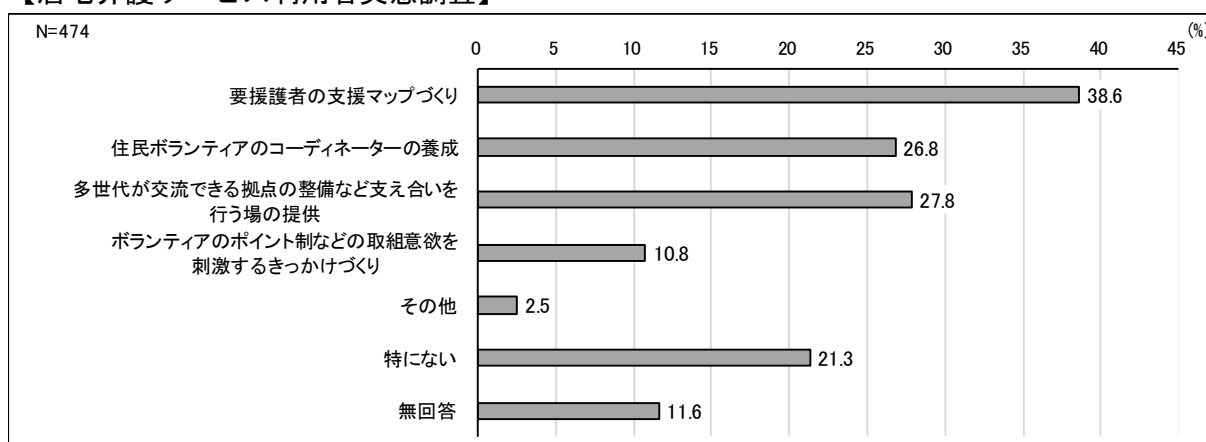
【ひとり暮らし老人登録者調査】



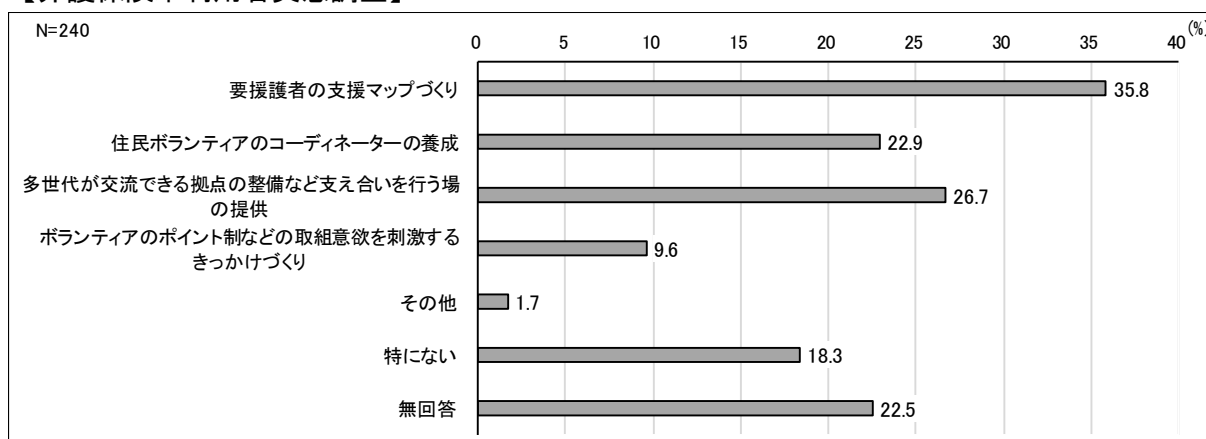
【日常生活圏域ニーズ調査】



【居宅介護サービス利用者実態調査】



【介護保険未利用者実態調査】



(4) 地域の人とつながりを持てる場や交流をする機会

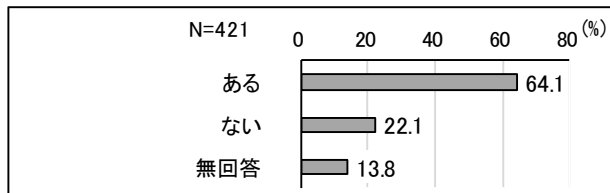
地域の人とつながりを持てる場や交流をする機会について、高齢者一般調査では、「地域とのつながりを持てる場や、交流をする機会がありますか。」という設問に対しては、「ある」という回答が「ない」を大きく上回っているものの、10人に3人以上の高齢者が、「ない」又は「無回答」となっています。

ひとり暮らし老人登録者調査では、「ある」と回答した方は半数以下となっており、2人に1人の方が地域とのつながりが希薄であるという結果は、今後の大きな課題です。

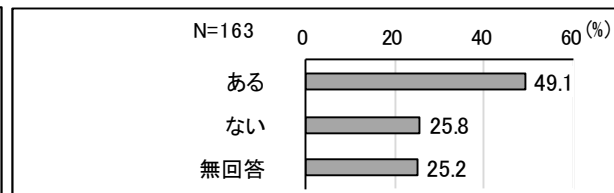
また、障害福祉サービス利用実態調査の結果を見ると、10人に4人が「ない」という回答しており、こちらも地域とのつながりが希薄であることが伺えます。

問 地域とのつながりを持てる場や、交流をする機会がありますか。(回答は1つ)

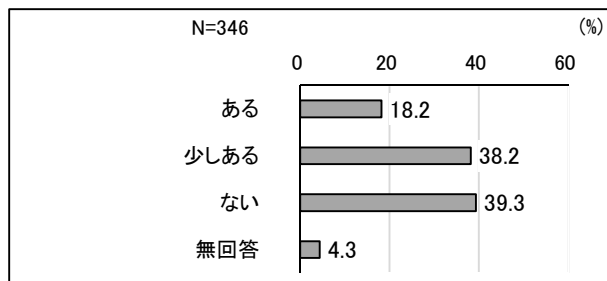
【高齢者一般調査】



【ひとり暮らし老人登録者調査】



【障害福祉サービス利用実態調査】

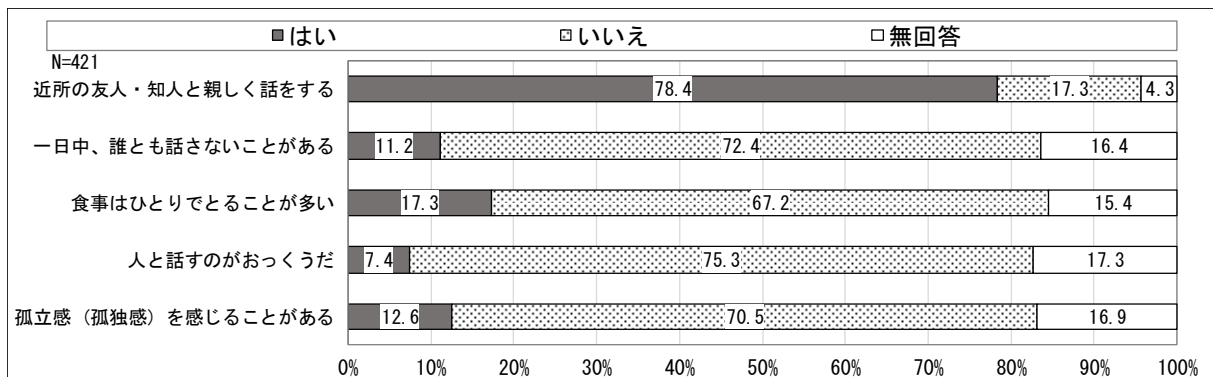


また、「あなたはふだん、次のようなことがありますか。」という設問に対しては、高齢者一般調査及びひとり暮らし老人登録者調査の結果を比較すると、「近所の友人・知人と親しく話をする」については、大きな差はありませんが、ひとり暮らし老人登録者調査では、「一日中、誰とも話さないことがある」、「食事はひとりでとることが多い」及び「孤立感（孤独感）を感じることもある」については、「ある」という回答が多くなっています。

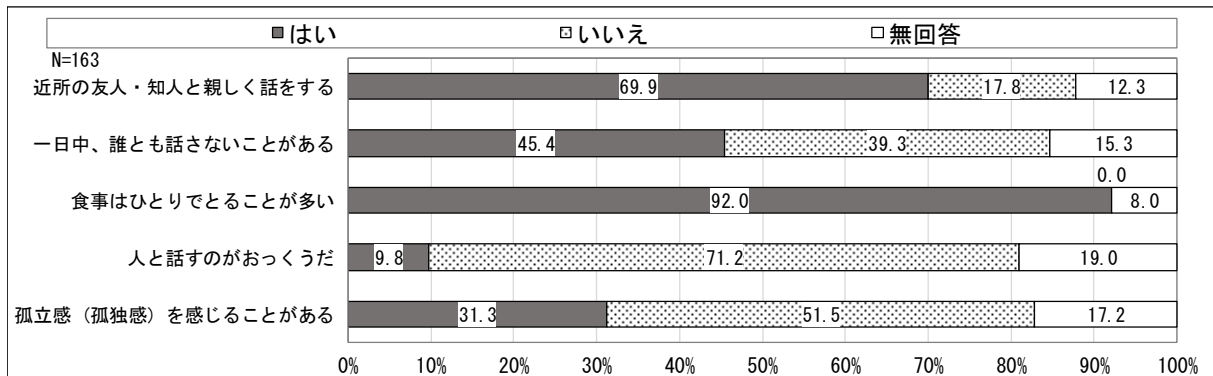
ひとり暮らしになると、約半数の方が1日中誰とも話さないことがあり、3人に1人が孤立感（孤独感）を感じることもあるとなっています。

問 あなたはふだん、次のようなことがありますか。（それぞれ回答は1つ）

【高齢者一般調査】



【ひとり暮らし老人登録者調査】



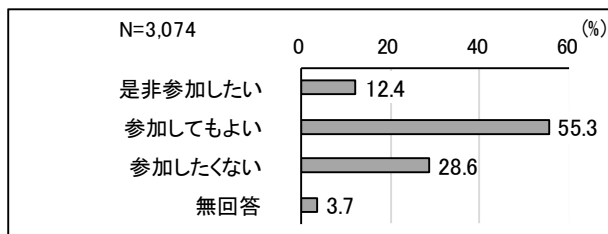
(5) 地域での活動

地域での活動について、日常生活圏域ニーズ調査では、「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。」という設問に対して、参加してもよいと思う人が多くなっていますが、「企画・運営（お世話役）」としては参加したくないと思う人が多く、地域での活動の担い手の確保が課題であることが分かります。

一方で、「参加者として」では7割近くの方が、「企画・運営（お世話役）として」では約4割の方が、「是非参加したい・してもよい」と思っており、地域活動への参加意欲が高いことが伺われます。

問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。（回答は一つ）

【日常生活圏域ニーズ調査】



問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（回答は一つ）

【日常生活圏域ニーズ調査】

